

令和 7 年度

自治医科大学看護師特定行為研修

研修生募集要項

（4 月期生募集用）



Brush up Program
for professional

自治医科大学看護師特定行為研修センター

1. 自治医科大学の理念

自治医科大学は、医療に恵まれない地域社会の医療の確保と向上および地域の住民福祉の増進を図るために、医の倫理に徹し、高度な医療能力を有する医師を育成することを目的とし、併せて医学および看護学の進歩と福祉の向上に資することを使命としています。

2. 沿革

わが国では、団塊の世代が75歳以上となる令和7（2025）年には、1人の高齢者を1.8人で支える社会構造になると予測されています。このような状況に対応していくことができるよう、手順書により一定の診療の補助を行うといった高度かつ専門的な知識と技術をもち、チーム医療のキーパーソンとして役割を発揮していくことができる看護師を養成することを目的に、国は特定行為に係る看護師の研修制度を創設しました。（保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令 平成27年10月1日施行）

本学では、大学の理念を踏まえ、看護師特定行為研修センターを設置し、看護師特定行為研修に取り組むことになりました。平成27年8月5日付で自治医科大学は、厚生労働省が指定する研修機関に指定されました。

3. 特定行為研修の目的・目標

本研修の目的は、地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、高度な臨床実践能力を発揮し、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成します。

研修目標

1. 地域医療及び高度医療の現場において、迅速かつ包括的なアセスメントを行い、当該特定行為を行う上での知識、技術及び態度の基礎的能力を養う。
2. 地域医療及び高度医療の現場において、患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実行できる基礎的能力を養う。
3. 地域医療及び高度医療の現場において、問題解決にむけて、多職種と効果的に協働できる能力を養う。
4. 自らの看護実績を見直しつつ、標準化する能力を養う。

4. 修了要件

本研修を修了するためには、次の条件を満たす必要があります。

- 1) 共通科目を全て履修し、筆記試験もしくは観察評価に合格すること
- 2) 1) 修了後、選択した区分別科目を履修し、筆記試験及び観察評価、一部の科目では実技試験に合格すること。

＊なお、特定行為研修修了後は、修了した特定区分ごとの修了証を交付し、研修修了者の名簿を厚生労働省に提出します。

5. 履修内容の読み替え

指定研修機関で既に履修した授業科目や時間数の取り扱い並びに履修の認定については、関連する科目の受講に当たり考慮します。

6. 定員

定員 30 名 *各特定行為区分の受入れ数 各実習クール 5 名、各領域パッケージ 5 名

7. 研修期間

1 特定行為区分の研修期間，2 年以内

研修は，共通して学ぶ「共通科目」と特定行為区分ごとに学ぶ「区分別科目」に分かれており，共通科目を履修後に区分別科目（選択制）を受講開始します。そのため，特定行為区分の研修期間には，共通科目修得と選択された 1 区分別科目または 1 領域パッケージの修了期間を含みます。

8. 在籍期間

在籍期間 2 年

*但し，2 年以内に区分別科目を修了した者は，継続して受講することができます。

9. 募集時期

年 2 回（4 月期と 10 月期）

10. 研修内容と時間数

研修は，講義，演習または実習によって行われます。

- 1) 共通科目（必修科目）：特定行為区分に共通して必要とされる能力を身につけるための科目

（研修期間の目安：6 か月）

共通科目名	時間数
臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ	34時間
臨床推論/フィジカルアセスメントⅡ	26時間
病態生理/疾病論Ⅰ	29時間
病態生理/疾病論Ⅱ	32時間
臨床薬理学	42時間
医療安全学	10時間
特定行為と手順書	14時間
特定行為基礎実習Ⅰ	38時間
特定行為基礎実習Ⅱ	25時間
合計時間数	250時間

*「特定行為基礎実習Ⅰ」「特定行為基礎実習Ⅱ」以外の共通科目は e-learning を中心とした講義を受け，筆記試験を合格後，「特定行為基礎実習Ⅰ」，「特定行為基礎実習Ⅱ」へ進みます。

＊ ＊ 「特定行為基礎実習Ⅰ」，「特定行為基礎実習Ⅱ」は，約１週間ずつ，自治医科大学附属病院，自治医科大学附属さいたま医療センターにて実習を受けていただきます。

2) 区分別科目(選択科目)：各特定行為に必要とされる能力を身につけるための科目

＊複数選択可能，受講開始後の追加申請も可能

(研修期間の目安：各区分５週から１３週まで)

コース	特定行為区分：特定行為	時間数
①	呼吸器（気道確保に係るもの）関連： 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	9 時間＋5 症例
②	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連： 侵襲的陽圧換気の設定の変更，非侵襲的陽圧換気の設定の変更，人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整，人工呼吸器からの離脱	29 時間＋5 症例
③	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連： 気管カニューレの交換	8 時間＋5 症例
④	循環器関連＊： 一時的ペースメーカの操作及び管理，一時的ペースメーカリードの抜去，経皮的心肺補助装置の操作及び管理，大動脈内バルーンポンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整	20 時間＋5 症例
⑤	胸腔ドレーン管理関連： 低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更，胸腔ドレーンの抜去	13 時間＋5 症例
⑥	腹腔ドレーン管理関連： 腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。）	8 時間＋5 症例
⑦	ろう孔管理関連： 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換，膀胱ろうカテーテルの交換	22 時間＋5 症例
⑧	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連： 中心静脈カテーテルの抜去	7 時間＋5 症例
⑨	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連： 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	8 時間＋5 症例
⑩	創傷管理関連： 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去，創傷に対する陰圧閉鎖療法	34 時間＋5 症例
⑪	創部ドレーン管理関連： 創部ドレーンの抜去	5 時間＋5 症例
⑫	動脈血液ガス分析関連： 直接動脈穿刺法による採血，橈骨動脈ラインの確保	13 時間＋5 症例
⑬	透析管理関連： 急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理	11 時間＋5 症例
⑭	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連： 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正	16 時間＋5 症例
⑮	感染に係る薬剤投与関連： 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与	29 時間＋5 症例

⑯	血糖コントロールに係る薬剤投与関連：インスリンの投与量の調整	16 時間+5 症例
⑰	術後疼痛管理関連：硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	8 時間+5 症例
⑱	循環動態に係る薬剤投与関連：持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整, 持続点滴中のナトリウム, カリウム又はクロールの投与量の調整, 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整, 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整, 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整	28 時間+5 症例
⑲	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連：抗けいれん剤の臨時の投与, 抗精神病薬の臨時の投与, 抗不安薬の臨時の投与	26 時間+5 症例
⑳	皮膚損傷に係る薬剤投与関連：抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整	17 時間+5 症例

* 循環器関連は、該当機器(体外式ペースメーカ、IABP、PCPS)の装着患者の看護経験のある者のみ。

領域別パッケージ

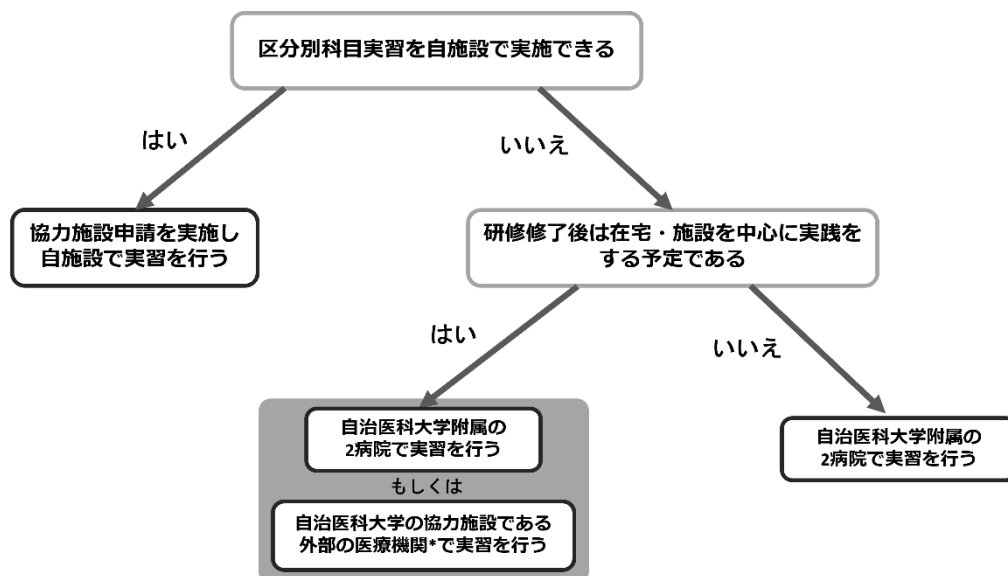
⑳	在宅・慢性期領域パッケージ	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連：気管カニューレの交換	8 時間+5 症例
		ろう孔管理関連：胃ろうカテーテルもしくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	16 時間+5 症例
		創傷管理関連：褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	26 時間+5 症例
		栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：脱水症状に対する輸液による補正	11 時間+5 症例
㉑	外科術後病棟管理領域パッケージ	呼吸器（気道確保に係るもの）関連：経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	9 時間+5 症例
		呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連：侵襲的陽圧換気の設定の変更, 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	17 時間+5 症例
		呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連：気管カニューレの交換	8 時間+5 症例
		胸腔ドレーン管理関連：低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更, 胸腔ドレーンの抜去	13 時間+5 症例
		腹腔ドレーン管理関連：腹腔ドレーンの抜去(腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む)	8 時間+5 症例
		栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連：中心静脈カテーテルの抜去	7 時間+5 症例
		栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連：末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	8 時間+5 症例
		創部ドレーン管理関連：創部ドレーンの抜去	5 時間+5 症例

		動脈血液ガス分析関連 ：直接動脈穿刺法による採血	9 時間＋5 症例
		栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ：持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	11 時間＋5 症例
		術後疼痛管理関連 ：硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	8 時間＋5 症例
		循環動態に係る薬剤投与関連 ：持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整，持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	16 時間＋5 症例
㉓	術中麻酔管理領域パッケージ	呼吸器（気道確保に係るもの）関連 ：経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	9 時間＋5 症例
		呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 ：侵襲的陽圧換気の設定の変更，人工呼吸器からの離脱	17 時間＋10 症例
		動脈血液ガス分析関連 ：直接動脈穿刺法による採血，橈骨動脈ラインの確保	13 時間＋10 症例
		栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ：脱水症状に対する輸液による補正	11 時間＋10 症例
		術後疼痛管理関連 ：硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	8 時間＋5 症例
		循環動態に係る薬剤投与関連 ：持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	12 時間＋5 症例
㉔	外科系基本領域パッケージ	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連 ：中心静脈カテーテルの抜去	7 時間＋5 症例
		創傷管理関連 ：褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	26 時間＋5 症例
		創部ドレーン管理関連 ：創部ドレーンの抜去	5 時間＋5 症例
		動脈血液ガス分析関連 ：直接動脈穿刺法による採血	9 時間＋5 症例
		栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ：脱水症状に対する輸液による補正	11 時間＋5 症例
		感染に係る薬剤投与関連 ：感染徴候がある者に対する薬剤の臨時投与	29 時間＋5 症例
		術後疼痛管理関連 ：硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	8 時間＋5 症例
㉕	集中治療領域パッケージ	呼吸器（気道確保に係るもの）関連 ：経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	9 時間＋5 症例
		呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 ：侵襲的陽圧換気の設定の変更，人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整，人工呼吸器からの離脱	23 時間＋5 症例

	循環器関連：一時的ペースメーカーの操作及び管理	8 時間＋5 症例
	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連：中心静脈カテーテルの抜去	7 時間＋5 症例
	動脈血液ガス分析関連：橈骨動脈ラインの確保	9 時間＋5 症例
	循環動態に係る薬剤投与関連：持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整，持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整，持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	20 時間＋5 症例

* 各科目，e-learning による講義を受講し，筆記試験を合格後，実習，一部演習科目を受講します。

** 実習施設は，自治医科大学附属病院，自治医科大学附属さいたま医療センター，近県・県内の協力施設の他，条件を満たせば自施設でも実習を行うことができます。



*近県・県内の医療機関4施設（2024年4月現在）

- ・ 修了後の迅速な特定行為実施のために，当センターでは自施設での実習を推奨しています。
- ・ 自施設の実習申請は区分別科目の実習開始前でも，実習中でも申請可能です。
- ・ 自治医科大学特定行為研修センターの協力施設となっている医療機関での実習に関して，実習先の希望はお受けできません。

図．区分別実習の受講方法

11. 受講モデル

共通科目を修得後，選択した区分別科目を履修します。特定行為の区分別科目は，複数選択できます。区分別科目毎に筆記試験，実習期間が異なります。半年間に 2～4 回の筆記試験及び実習期間の設定があるため，勤務との関係で，受講スケジュールの選択ができます。受講開始後に区分別科目の追加申請も可能です。受講が決定した際

には、個別に受講スケジュールの相談に応じます。
(全体の受講進行表、区分別科目の受講モデルを参照)

12. 受講条件

次の各号に定める要件をすべて満たしていることが必要です。

【必須条件】

- 1) 看護師免許を有すること。
- 2) 看護師の免許取得後、通算 5 年以上の実務経験を有すること。
- 3) 所属長（看護部長あるいは同等職位の所属長）の推薦を有すること。

13. 出願手続き

募集要項請求方法

自治医科大学ホームページ「看護師特定行為研修センター」から必要書類をダウンロードしてください。

大学ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/>

看護師特定行為研修センターHP <http://www.jichi.ac.jp/tokutei/index.html>

出願締め切り

令和 7 年 1 月 9 日（木）当日消印有効

出願提出書類

- 1) 受講願書（様式 1）
- 2) 履歴書（様式 2）
- 3) 志願理由書（様式 3）
- 4) 推薦書（様式 4）＊推薦者は所属施設の管理者などとする。
- 5) 緊急連絡先（様式 5）
- 6) 看護師免許（写）

※ 提出された出願書類は返却いたしません。

出願書類提出方法

〒329-0498

栃木県下野市薬師寺 3311-159 自治医科大学 看護師特定行為研修センター

※必ず「郵便書留」で送付してください。

TEL：0285（58）8932 特定行為研修センター事務室（問合せ窓口）

14. 選考方法

書類選考により行います。選考結果については、本人宛て簡易書留速達にて郵送します。電話や FAX での可否の問い合わせには応じられません。

15. 受講手続きと納付金（入講納付金及び受講料）について

受講予定者に受講手続きについての詳細をご案内します。なお、受講手続き期間および納付金については下記のとおりです。

受講手続き期間 令和7年2月3日（月）～2月14日（金）

納付金（消費税込）

①入講納付金 20,000 円

②共通科目の受講料 一括 380,000 円

③希望する区分別科目の受講料（下記の受講料・実習教材費一覧表参照）

*実技試験を要する区分別科目においては、別途実習教材費（25,000 円～100,000 円／科目）がかかります。

【区分別科目受講料・実習教材費一覧表】（消費税込）

コース No	特定行為区分名	受講料	実習教材費
①	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	30,000 円	25,000 円
②	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	82,000 円	
③	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	27,000 円	25,000 円
④	循環器関連	60,000 円	
⑤	胸腔ドレーン管理関連	39,000 円	
⑥	腹腔ドレーン管理関連	29,000 円	
⑦	ろう孔管理関連	65,000 円	50,000 円
⑧	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	23,000 円	
⑨	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	27,000 円	25,000 円
⑩	創傷管理関連	93,000 円	25,000 円
⑪	創部ドレーン管理関連	19,000 円	
⑫	動脈血液ガス分析関連	40,000 円	50,000 円
⑬	透析管理関連	36,000 円	
⑭	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	49,000 円	
⑮	感染に係る薬剤投与関連	82,000 円	
⑯	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	47,000 円	
⑰	術後疼痛管理関連	27,000 円	
⑱	循環動態に係る薬剤投与関連	78,000 円	
⑲	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	75,000 円	
⑳	皮膚損傷に係る薬剤投与関連	52,000 円	
㉑	在宅・慢性期領域パッケージ	146,000 円	75,000 円
㉒	外科術後病棟管理領域パッケージ	340,000 円	100,000 円
㉓	術中麻酔管理領域パッケージ	180,000 円	75,000 円

＜受講進行表（参考）＞

全科目の進行表例(4月期、10月期とも同様に進行する)

* 講義	試験	実習	予備
------	----	----	----

[illegible]

＜共通科目の受講モデル＞ *e ラーニングですのであくまでも1例です。

共通科目 時間割（前期：4～7月、後期10月～1月）

	月	火	水	木	金
120分	病態生理/疾病論Ⅰ全15回うち13回（対面授業を除く）	病態生理/疾病論Ⅱ全16回うち13回	臨床薬理学全21回うち10回	臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ全17回うち3回 臨床推論/フィジカルアセスメントⅡ全13回うち12回	医療安全学全6回うち5回
120分	臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ全17回うち13回	臨床推論/フィジカルアセスメントⅡ全13回うち12回	臨床薬理学全21回うち10回	特定行為と手順書全8回うち7回	課題レポート予備日

共通科目 試験予定（本試験：前期7月中旬、後期1月中旬、再試験：前期7月下旬、後期1月下旬）

	月	火	水	木	金
120分	病態生理/疾病論Ⅰ	病態生理/疾病論Ⅱ	特定行為基礎実習 オリエンテーション	予備日	予備日
120分	医療安全学、特定行為と手順書	臨床推論/フィジカルアセスメントⅡ	（医療安全講習、電子カルテシステムの説明を含む）		
120分	臨床薬理学	臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ			

長期履修の場合

共通科目を1年間で受講する。

共通科目前期では、臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ、臨床推論/フィジカルアセスメントⅡ、病態生理/疾病論Ⅱを受講し、本試験を受験する。共通科目後期では病態生理/疾病論Ⅰ、臨床薬理学、医療安全学、特定行為と手順書を受講し、本試験を受ける。その後、特定行為基礎実習Ⅰ、特定行為基礎実習Ⅱを受講する。（試験予定は上記参照）

4 月期に 3 科目、10 月期に 4 科目を学習し、10 月期の特定行為基礎実習を受講する。

* 講義 試験 実習 予備

		4月					5月					6月					7月					8月					9月					10月					11月					12月					1月					2月					3月						
		週数																																																													
区分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54								
共通科目	臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ																																																														
	臨床推論/フィジカルアセスメントⅡ																																																														
	病態生理/疾病論Ⅰ																																																														
	病態生理/疾病論Ⅱ																																																														
	臨床薬理学																																																														
	医療安全学																																																														
	特定行為と手順書																																																														
	特定行為基礎実習Ⅰ																																																														
	特定行為基礎実習Ⅱ																																																														

	月	火	水	木	金
内 容	通信	対面（医療面接・身体診察に関するシミュレーション教育、グループワーク、カンファレンス）	対面（医療面接・身体診察に関するシミュレーション教育（模擬患者演習）、グループワーク、カンファレンス）	通信	対面（観察評価試験、筆記試験）

	日	月	火	水	木	金	土
内 容	通信 (実習オリエンテーション)	病院実習（病棟・外来実習、観察評価）					通信 (実習の振り返り)

12

<複数の区分別科目選択の受講モデル（参考）>

急性期で活用しやすいモデル：動脈血ガス分析関連，中心静脈カテーテル管理関連，呼吸器（気道確保）関連，呼吸器（人工呼吸療法）関連，持続点滴中の薬剤の投与量の調整を選択した場合

1) 講義（通信教育）の期間：約 9 週間 * 日時は自由に変更可能、各 1 回は試験

	月	火	水	木	金
120 分	動脈血ガス分析 関連 I 全 6 回うち 5 回	呼吸器(人工呼吸 療法)関連 I 全 15 回うち 5 回	中心静脈カテー テル管理関連 I 全 4 回うち 3 回	持続点滴中の薬 剤の投与量の調 整 I 全 14 回うち 4 回	持続点滴中の薬 剤の投与量の調 整 I 全 14 回うち 5 回
	月	火	水	木	金
120 分	呼吸器(気道確 保)関連 I 全 4 回うち 3 回	呼吸器(人工呼吸 療法)関連 I 全 15 回うち 3 回	呼吸器(人工呼吸 療法)関連 I 全 15 回うち 3 回	持続点滴中の 薬剤の投与量の 調整 I 全 14 回 うち 4 回	呼吸器(人工呼吸 療法)関連 I 全 15 回うち 3 回

2) 試験 各区分別科目の最終回

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ①動脈血ガス分析関連 I | 本試験：10 週目，再試験：11 週目 |
| ②中心静脈カテーテル管理関連 I | 本試験：10 週目，再試験：11 週目 |
| ③呼吸器（気道確保）関連 I | 本試験：10 週目，再試験：11 週目 |
| ④呼吸器（人工呼吸療法）関連 I | 本試験：10 週目，再試験：11 週目 |
| ⑤持続点滴中の薬剤の投与量の調整 I | 本試験：10 週目，再試験：11 週目 |

3) 実習 * 実習期間は症例確保の状況により変更する可能性あり

実習期間：最低 25 日間

想定される実習場所：ICU，CCU，救命救急センターなど

動脈血ガス分析関連Ⅱ* 5 症例，中心静脈カテーテル管理関連Ⅱ 5 症例，呼吸器（気道確保）関連Ⅱ* 5 症例，呼吸器（人工呼吸療法）関連Ⅱ 5 症例，持続点滴中の薬剤の投与量の調整Ⅱ 5 症例 合計 25 症例 *OSCE あり

<少数の区分別科目選択の受講モデル(参考)>

在宅で活用しやすいモデル：ろう孔管理関連，創傷管理関連を選択した場合

1) 講義（通信教育）の期間：約 5 週間 * 日時は自由に変更可能、各 1 回は試験

	月	火	水	木	金
120 分	ろう孔管理 関連Ⅰ 全 5 回うち 4 回	ろう孔管理 関連Ⅲ 全 5 回うち 4 回	創傷管理関連Ⅰ 全 12 回うち 4 回	創傷管理関連Ⅰ 全 12 回うち 4 回	創傷管理関連Ⅰ 全 12 回うち 3 回

2) 試験 各区分別科目の最終回

- ①ろう孔管理関連Ⅰ 本試験：6 週目，再試験：7 週目
- ②ろう孔管理関連Ⅲ 本試験：6 週目，再試験：7 週目
- ③創傷管理関連Ⅰ 本試験：6 週目，再試験：7 週目

3) 実習 * 実習期間は症例確保の状況により変更する可能性あり

実習期間：最低 20 日間

想定される実習場所：ろう孔管理関連Ⅱ 消化器センター，外科外来など
 ろう孔管理関連Ⅳ 泌尿器科など
 創傷管理関連Ⅱ 皮膚科，皮膚科外来など

ろう孔管理関連Ⅱ*5 症例，ろう孔管理関連Ⅳ*5 症例，創傷管理関連Ⅱ*5 症例
 合計 15 症例 *OSCE あり

<区分別科目 在宅・慢性期領域パッケージ受講モデル(参考)>

呼吸器（長期呼吸療法）関連：気管カニューレの交換

ろう孔管理関連：（胃ろうカテーテルもしくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換）

創傷管理関連：（褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去）

水分管理（脱水と輸液）関連：（脱水症状に対する輸液による補正）

1) 講義（通信教育）の期間：約 6 週間 * 日時は自由に変更可能、各 1 回は試験

	月	火	水	木	金
120 分	呼吸器関連 （長期呼吸療法） 全 4 回うち 3 回	創傷管理関連 I 全 12 回うち 3 回	創傷管理関連 I 全 12 回うち 3 回	創傷管理関連 I 全 12 回うち 3 回	創傷管理関連 I 全 12 回うち 2 回
	月	火	水	木	金
120 分	ろう孔管理関連 I 全 5 回うち 3 回	水分管理(脱水と 輸液)関連 I 全 5 回うち 2 回	ろう孔管理関連 I 全 5 回うち 1 回 ろう孔管理関連 III 全 3 回うち 2 回	水分管理(脱水と 輸液)関連 I 全 5 回うち 2 回	栄養管理(高カロリー 輸液の調整) 関連 I 全 5 回うち 2 回

2) 試験 各区分別科目の最終回

区分別科目名	本試験	再試験
①呼吸器（長期呼吸）関連	7 週目	8 週目
②ろう孔管理関連 I	7 週目	8 週目
③創傷管理関連 I	7 週目	8 週目
④水分管理（脱水と輸液）関連 I	7 週目	8 週目

3) 実習 * 実習期間は症例確保の状況により変更する可能性あり

実習期間：最低 6 週間（例：呼吸器（長期呼吸）関連 1 週間，創傷管理関連 II 2 週間，ろう孔管理関連 II & 栄養水分管理関連(脱水と輸液 II) 2 週間）

想定される実習場所：呼吸器関連（長期呼吸） 耳鼻咽喉科等

ろう孔管理関連 II 消化器センター，外科外来等

創傷管理関連 II 皮膚科等

水分管理（脱水と輸液）関連 II 消化器外科，腎臓内科等

呼吸器関連（長期呼吸）* 5 症例，ろう孔管理関連 II * 5 症例，
創傷管理関連 II * 5 症例，水分管理関連 5 症例 合計 20 症例 *OSCE あり

長期履修の場合

区分別科目を半年～1年間で受講する。研修生が受講計画を共通科目受講後期までに立案し、講義（通信教育）、本試験、実習の時期は受講計画に応じて調整する。

全科目の進行表例

4 月期に呼吸器（長期呼吸）関連、ろう孔管理関連を受講し、10 月期に栄養水分管理関連、創傷管理関連を受講し、区分別科目を1年間受講する受講計画を立てた場合

[illegible]

＜区分別科目 外科術後病棟管理領域パッケージ受講モデル(参考)＞

呼吸器（気道確保）関連：経口用気管チューブ⁶又は経鼻用気管チューブ⁶の位置の調整

呼吸器（人工呼吸療法）関連：侵襲的陽圧換気の設定の変更，非侵襲的陽圧換気の設定の変更

呼吸器（長期呼吸療法）関連：気管カニューレの交換

胸腔ドレーン管理関連：低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更，胸腔ドレーンの抜去

腹腔トレーン管理関連：腹腔トレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。）

中心静脈カテーテル管理関連：中心静脈カテーテルの抜去

末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理関連

: 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入

創部トレーン管理関連：創部トレーンの抜去

動脈血液ガス分析関連：直接動脈穿刺法による採血

栄養管理（高カロリー輸液の調整） 関連：持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整

術後疼痛管理関連：硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整

持続点滴中の薬剤の投与量の調整：持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整，持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

1) 講義（通信教育）の期間：約 7 週間 * 日時は自由に変更可能、各 1 回は試験

	月	火	水	木	金
120 分	呼吸器関連(気道確保) I 全 4 回うち 3 回 呼吸器関連(長期呼吸療法) 全 4 回うち 3 回	呼吸器関連(人工呼吸療法) I 全 15 回うち 7 回	栄養管理(高カロリー輸液の調整) 関連 I 全 5 回うち 4 回 脱水と輸液 I 全 5 回うち 3 回	胸腔ドレーン管理 関連 I 全 7 回うち 6 回	術後疼痛管理関連 全 4 回うち 3 回 動脈血液ガス分析 関連 I 全 4 回うち 3 回
120 分	中心静脈カテーテル管理関連 I 全 4 回うち 3 回 末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理関連 I 全 3 回うち 2 回	呼吸器関連(人工呼吸療法) I 全 15 回うち 1 回	持続点滴中の薬剤の投与量の調整 I 全 8 回うち 7 回	腹腔ドレーン管理 関連 I 全 5 回うち 4 回 創部ドレーン管理 関連 I 全 3 回うち 2 回	課題レポート

2) 試験 各区分別科目の最終回

区分別科目名	本試験	再試験
①呼吸器（気道確保）関連 I	8 週目	9 週目
②呼吸器（人工呼吸療法）関連 I	8 週目	9 週目
③呼吸器（長期呼吸療法）関連	8 週目	9 週目
④胸腔ドレーン管理関連 I	8 週目	9 週目
⑤腹腔ドレーン管理関連 I	8 週目	9 週目
⑥中心静脈カテーテル管理関連 I	8 週目	9 週目
⑦末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理関連 I	8 週目	9 週目
⑧創部ドレーン管理関連 I	8 週目	9 週目
⑨動脈血液ガス分析関連 I	8 週目	9 週目
⑩栄養管理（高カロリー輸液の調整）関連 I	8 週目	9 週目
⑪術後疼痛管理関連	8 週目	9 週目
⑫持続点滴中の薬剤の投与量の調整 I	8 週目	9 週目

3) 実習 * 実習期間は症例確保の状況により変更する可能性あり

実習期間 : 最低 12 週間

想定される実習場所

区分別科目名	場所
①呼吸器（気道確保）関連Ⅱ ＊	救命救急センターなど
②呼吸器（人工呼吸療法）関連Ⅱ	救命救急センターなど
③呼吸器（長期呼吸療法）関連 ＊	耳鼻咽喉科など
④胸腔ドレーン管理関連Ⅱ	呼吸器外科など
⑤腹腔ドレーン管理関連Ⅱ	消化器外科，一般外科など
⑥中心静脈カテーテル管理関連Ⅱ	心臓血管外科など
⑦末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理関連Ⅱ ＊	血液内科など
⑧創部ドレーン管理関連Ⅱ	消化器外科，一般外科など
⑨動脈血液ガス分析関連Ⅱ ＊	救命救急センターなど
⑩栄養管理（高カロリー輸液の調整）関連Ⅱ	消化器外科など
⑪術後疼痛管理関連	手術室，外科系など
⑫持続点滴中の薬剤の投与量の調整Ⅱ	循環器センターなど

＊OSCE あり

すべての科目（12 科目 15 行為）を 5 症例以上 合計 75 症例以上

<区分別科目 術中麻酔管理領域パッケージ受講モデル(参考)>

呼吸器（気道確保）関連：経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整

呼吸器（人工呼吸療法）関連：侵襲的陽圧換気の設定の変更，人工呼吸器からの離脱

動脈血液ガス分析関連：直接動脈穿刺法による採血，橈骨動脈ラインの確保

水分管理（脱水と輸液）関連：脱水症状に対する輸液による補正

術後疼痛管理関連：硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整

持続点滴中の薬剤の投与量の調整：持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

1) 講義（通信教育）の期間：約 6 週間 ＊日時は自由に変更可能、各 1 回は試験

	月	火	水	木	金
120 分	呼吸器(気道確保)関連Ⅰ 全 4 回うち 3 回	呼吸器(人工呼吸療法)関連Ⅰ 全 9 回うち 6 回	動脈血液ガス分析関連Ⅰ 全 6 回うち 5 回	水分管理(脱水と輸液)関連Ⅰ 全 3 回うち 2 回	術後疼痛管理関連 全 4 回うち 3 回
	呼吸器(人工呼吸療法)関連Ⅰ 全 9 回うち 2 回			持続点滴中の薬剤の投与量の調整Ⅰ 全 6 回うち 2 回	持続点滴中の薬剤の投与量の調整Ⅰ 全 6 回うち 3 回

2) 試験 各区分別科目の最終回

区分別科目名	本試験	再試験
① 呼吸器（気道確保）関連Ⅰ	7 週目	8 週目
②呼吸器（人工呼吸療法）関連Ⅰ	7 週目	8 週目
③動脈血液ガス分析関連Ⅰ	7 週目	8 週目
④水分管理（脱水と輸液）関連Ⅰ	7 週目	8 週目
⑤術後疼痛管理関連	7 週目	8 週目
⑥持続点滴中の薬剤の投与量の調整Ⅰ	7 週目	8 週目

3) 実習 *実習期間は症例確保の状況により変更する可能性あり

実習期間：最低 5 週間

想定される実習場所：

*OSCE あり

動脈血液ガス分析関連Ⅱ*

手術部，救急部等

術後疼痛管理関連

手術部，外科系病棟等

呼吸器（気道確保*，人工呼吸療法）関連Ⅱ

手術部，集中治療部等

持続点滴中の薬剤の投与量の調整Ⅱ

手術部，集中治療部等

水分管理（脱水と輸液）関連Ⅱ

手術部，集中治療部，救急部等

すべての科目（6 科目 8 行為）を 5 症例以上 合計 40 症例以上

<区分別科目 外科系基本領域パッケージ受講モデル(参考)>

中心静脈カテーテル管理関連：中心静脈カテーテルの抜去

創傷管理関連：褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去

創部ドレーン管理関連：創部ドレーンの抜去

動脈血液ガス分析関連：直接動脈穿刺法による採血

水分管理（脱水と輸液）関連：脱水症状に対する輸液による補正

感染徴候時の臨時薬剤の投与：感染徴候がある者に対する薬剤の臨時投与

術後疼痛管理関連：硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整

1) 講義（通信教育）の期間：約 6 週間 ＊日時は自由に変更可能、各 1 回は試験

	月	火	水	木	金
120 分	中心静脈カテーテル管理関連 I 全 4 回うち 3 回 創部ドレーン管理関連 I 全 3 回うち 2 回	創傷管理関連 I 全 12 回うち 6 回	動脈血液ガス分析関連 I 全 4 回うち 3 回	感染徴候時の臨時薬剤の投与 I 全 15 回うち 4 回 栄養管理関連（高カロリー輸液の調整）I 全 3 回うち 2 回	感染徴候時の臨時薬剤の投与 I 全 15 回うち 6 回
120 分	水分管理関連（脱水と輸液）I 全 5 回うち 4 回	創傷管理関連 I 全 12 回うち 5 回	術後疼痛管理関連 全 4 回うち 3 回	感染徴候時の臨時薬剤の投与関連 I 全 15 回うち 4 回	課題レポート

2) 試験 各区分別科目の最終回

区分別科目名	本試験	再試験
①中心静脈カテーテル管理関連 I	7 週目	8 週目
②創傷管理関連 I	7 週目	8 週目
③創部ドレーン管理関連 I	7 週目	8 週目
④動脈血液ガス分析関連 I	7 週目	8 週目
⑤栄養水分管理（脱水と輸液）関連 I	7 週目	8 週目
⑥感染徴候時の臨時薬剤の投与 I	7 週目	8 週目
⑦術後疼痛管理関連	7 週目	8 週目

3) 実習 ＊実習期間は症例確保の状況により変更する可能性あり

実習期間：最低 8 週間

想定される実習場所：

中心静脈カテーテル管理関連 II

創傷管理関連 II *

創部ドレーン管理関連 II

動脈血液ガス分析関連 II *

水分管理（脱水と輸液）関連 II

感染徴候時の臨時薬剤の投与 II

術後疼痛管理関連

外科系病棟等

皮膚科病棟・外来，外科系病棟等

外科系病棟等

手術部，救急部等

外科系・内科系病棟等

感染制御部，外科系・内科系病棟

手術部，外科系病棟等

＊OSCE あり

すべての科目（7 科目 7 行為）を 5 症例以上 合計 35 症例以上

<区分別科目 集中治療領域パッケージ受講モデル(参考)>

呼吸器（気道確保）関連：経口用気管チューブ[®]又は経鼻用気管チューブ[®]の位置の調整

呼吸器（人工呼吸療法）関連：侵襲的陽圧換気の設定の変更，人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整，人工呼吸器からの離脱

循環器関連：一時的ペースメーカーの操作及び管理

中心静脈カテーテル管理関連：中心静脈カテーテルの抜去

動脈血液ガス分析関連：橈骨動脈ラインの確保

持続点滴中の薬剤の投与量の調整：持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整，持続点滴中のナトリウム又はクロールの投与量の調整，持続点滴中の降圧剤の投与量の調整

1) 講義（通信教育）の期間：約 6 週間 * 日時は自由に変更可能、各 1 回は試験

	月	火	水	木	金
120 分	動脈血液ガス分析 関連 I 全 5 回うち 4 回	持続点滴中の薬剤 の投与量の調整 I 全 10 回うち 6 回	呼吸器（人工呼 吸療法）関連 I 全 12 回うち 6 回	循環器関連 I 全 6 回うち 5 回	中心静脈カテーテル 管理関連 I 全 4 回うち 3 回
120 分	呼吸器（気道確保） 関連 I 全 4 回うち 3 回	持続点滴中の薬剤 の投与量の調整 I 全 10 回うち 3 回	呼吸器（人工呼 吸療法）関連 I 全 12 回うち 5 回		

2) 試験 各区分別科目の最終回

区分別科目名	本試験	再試験
①呼吸器（気道確保）関連	7 週目	8 週目
②呼吸器（人工呼吸療法）関連	7 週目	8 週目
③循環器関連	7 週目	8 週目
④中心静脈カテーテル管理関連 I	7 週目	8 週目
⑤動脈血液ガス分析関連 I	7 週目	8 週目
⑥持続点滴中の薬剤の投与量の調整 I	7 週目	8 週目

3) 実習 * 実習期間は症例確保の状況により変更する可能性あり

実習期間：最低 4 週間

想定される実習場所：

呼吸器（気道確保）関連 II *	ICU、CCU 等
呼吸器（人工呼吸療法）関連 II	ICU、CCU 等
循環器関連 II	ICU、CCU 等

中心静脈カテーテル管理関連Ⅱ	ICU、CCU 等
動脈血液ガス分析関連Ⅱ*	ICU、CCU 等
持続点滴中の薬剤の投与量の調整Ⅱ	ICU、CCU 等

* OSCE あり

すべての科目（6 科目 10 行為）を 5 症例以上	合計 50 症例以上
----------------------------	------------

令和7年度4月期の日程（予定）

令和 7 年 3 月 5 日	入講式・オリエンテーション
令和 7 年 4 月 1 日	共通科目受講開始
令和 7 年 7 月下旬	区分別科目コース決定
令和 7 年 9 月下旬	共通科目修得判定
令和 7 年 10 月 1 日	区分別科目受講開始
令和 8 年 3 月下旬	区分別科目修了判定・修了式



交通

JR 東北本線 (宇都宮線)

「自治医大駅」下車，徒歩15分，または接続バスで5分

※東北新幹線を利用する場合は、

- 【1】東京方面からでは小山駅で下車、
【2】東北方面からでは宇都宮駅で下車、

東北本線（宇都宮線）に乗り換え「自治医大駅」で下車となります。

自治医科大学看護師特定行為研修センター

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-159

TEL : 0285 (58) 8932

e-mail : j-endure@jichi.ac.jp

<http://www.jichi.ac.jp/>